

1 年生 GS 科 特設科学講座 【海はウイルスで満ちている】

10 月 18 日（金）、京都大学大学院の吉田 天士先生をお招きし、「海はウイルスで満ちている」というタイトルで、1 年生 GS 科の生徒を対象にご講演いただきました。

コップ一杯の海水の中に 10 億個ものウイルスが含まれていることや、そのウイルスが海中の微生物の生態系のバランスを保つ役割も担っていることに驚いた生徒が多く、ふだんは物理学の分野で探究を行っている生徒にとって生物学にも視野を広げる機会となりました。今後も様々な分野に対して関心をもって学ぶ姿勢を大切にしてくれることを期待します。



生徒たちの声

僕は今まで、あまり生物学に興味がなく、深掘りをしたことはなかったが、そもそも生物学はどのようなこともしているのかを知ることができた。また、その生物学というのは、顕微鏡で拡大する「レーベンフック」増殖を制御する「パスツール」純粋分離の「コッホ」で成り立っていると知った。そして最初の、海水のコップ一杯に含まれるウイルスが 10 億個と聞いてとても驚いた。

初めは、ウイルスと微生物の違いについてもよく知らない部分があり、その違いについても初めにしてもらいとても理解できました。その中でも特に海の炭素の循環と陸の炭素の循環がほとんど同じということに驚きました。僕は物理の実験をテーマ研究で研究していて生物はあまり馴染みがなかったのですがとても視野が広がりました。

初めの方の話で、海の水をコップ一杯すくうと約十億個ものウイルスが存在しているということに衝撃を受けました。この講義を聞く前は、ウイルスと聞くとコロナなどの悪いイメージがありました。しかし、今回の講義を聞いて地球の炭素の流れの 4 分の 1 は微生物が担っていて、微生物が地球温暖化の鍵を握っている可能性があること知り、ウイルスに良いイメージも持つようになりました。微生物が鍵を握っているのが興味深いと思いました。

今回の特設科学講座を聞いて、ウイルスや微生物と環境との関係について深く学ぶことができました。特に微生物やウイルスが発見された過程や、それについての歴史についての話がとても興味深かったです。さらにウイルスが増えすぎた細菌を減らしていくのでそれによって生物多様性が維持されているということにはとても驚きました。今回得た知識をこれからの学習にも活かしていきたいです。

初めは、ウイルスと微生物の違いについてもよく知らない部分があり、その違いについても初めにしてもらいとても理解できました。その中でも特に海の炭素の循環と陸の炭素の循環がほとんど同じということに驚きました。僕は物理の実験をテーマ研究で研究していて生物はあまり馴染みがなかったのですがとても視野が広がりました。